

# 令和5年度 学校評価結果公表

原山台幼稚園

## 1、園の教育目標

＜げんきであかるくのびのびと＞少人数のクラス編成で一人ひとりを大切に。

- \* 健康で明るく心身ともにバランスのとれた子。
- \* 思いやりのある豊かな心と頑張る強い心を持った子。
- \* 自分でよく考え自分で行動できる子ども。



## 2、本園の重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した、学校評価の具体的な目標や計画

- \* 自己点検・自己評価することにより個々の目標保育を振り返り、自園の教育方針を十分に理解した保育を、又、教育目標に基づいた保育がなされているか等を各教師自ら客観的に見直し、自分の長所や課題を理解し、保育者として向上を目指す。
- \* 各保育者の自己評価を踏まえて、園設備・環境・教育内容の改善に取り組んでいく。



## 3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
教育方針・指導計画記録について	例年通り指導計画は園全体で、又、各学年が話し合い、個々の子ども達が楽しめるよう、又、心身の成長に沿ったものに計画されている。またその年の子ども達の反応や発見に応じて、変更できるように配慮している。行事ごとに改めて確認し、どの保育者も指導内容を十分に理解し、園内外問わず第三者にも周知喚起できるようにしておく。
健康について	子ども達が心身ともに、健康で安全な生活を送ると共に、笑顔あふれる園生活が送れるように、各家庭の環境を把握する事で、家庭で基本的な生活習慣を送っていけるようにいろいろな形で発信する。又、必要に応じて家庭との連携をとり見守り援助していく。食育に関しては、園内の畑で野菜や、果物を育て、観察・収穫を行い、給食の食材として、提供されている。
人間関係について	保育者と子ども、そして保護者との信頼関係を築く事に重点を置き、安心した関係の中で園生活が送れるようにする事は、変わりなく今年度も基本としておく。学年に応じた遊びを工夫したりして、子ども達とたくさん関わりを持っている。トラブルが起きた時には、子どもたち同士での解決が出来るか見守りつつ、それでも解決出来ない場合には保育者が仲裁に入り、互いの思いに耳を傾けるようにして、相手の気持ちにも気付かせるような言葉掛けをし、納得がいくまで十分に時間を設けている。
環境について	園で過ごすことが、子ども達の生活、すなわち環境であることを頭に置き、安心して過ごせる環境を作り、感性を育つように整える。教材や備品は、常に見やすく、取りやすくし、整理整頓を心がける。
言葉について	毎日の園生活を過ごす事で、話す楽しさを味わえるようにし、子ども達の思いを受け止め、一人ひとりが自分の意思表示を出来るような環境作りをしたり、発表する場を設けたりしている。自分の思いを

	言葉にするのが難しい子どもや学年では、保育者が代弁しながら問いかけ、子どもの反応を見ながら関わるようにしている。
表 現 に つ い て	作品・リズム・思い等の様々な表現などができる楽しさを味わい、自信につながっていける様に配慮する。又、表現できる場として、日々の園生活、行事を工夫し、子ども達が積極的に参加できるようひとりひとりの思いや意見を取り入れ工夫・配慮してきた。
研 修 に つ い て	例年同様保育終了後や長期休暇を利用して、積極的に研修に参加している。また、園内においても、色々な事例に基づいてシミュレーションを行っている。また、園外研修参加後は、内容を園に持ち帰り、他の職員への報告を行い、共有を心がけた。今後も、お互い情報交換することで、保育技術の向上に努めていきたい。研修に参加することで満足せずに、自分自身の課題を見つけ、教育者としての、意欲や知識の向上を目指す事を、今年も課題としていきたい。
家 庭 と の 連 携 に つ い て	例年と変わらず、保護者の思いに耳を傾け、懇談や送迎の際にその日の子どもの様子を伝えるなどし、より深く信頼関係を築けるようにしている。今後も続けて努力していくと共に、一人ひとりの成長について各家庭と情報を共有・交換・連携していく事を怠らないように心がける。SNSやブログを通して園生活の様子が伝わるように努めてきたので、今後も続けていきたい。
安 全 ・ 衛 生 管 理 に つ い て	園生活の中で、個々の心遣いや配慮・点検が、安全管理に繋がることを意識し日頃から気をつけるようにしてきた。園庭では、各遊具の側で安全面に配慮し、担任だけでなく、補佐の職員も一緒に見守るようにしている。また、各学年に応じた遊具で遊ぶようにし、危険のないようにしている。火事・地震・不審者侵入などの訓練を定期的に行い、非常時には各職員がとるべき状況を確認し把握できるようになった。普段の訓練は行えているが、各行事の時も同じように行えるよう、認識が必要だと思う。例年と同じように、ヒヤリ・ハットの事案を検証し、子どもにとって怪我の対象となるようなものは、出しっ放しにしない・すぐに修理する等を徹底し、昨年度より改善されたが、今後も怠らないように努めたい。園児が服用する薬や、園置きしている薬品は、間違いの無いように細心の注意を払った。
学 級 運 営 に つ い て	園内全域にわたり、子ども達が園生活を過ごす上で、わかりにくかったり、使いにくかったりするところがあるので整理整頓を心がける。支援が必要な子どもに関して、専門機関の先生の相談することができ、次年度のクラス編成では、加配職員をクラスに配置した。例年同様変わらず、園児の個人記録はその時々記録すると共に、今後の園生活に的確な引継ぎが出来るよう、職員は心がけておく。



#### 4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

##### 評価結果

自己評価をする度に思うことであるが、自己評価を終えるたびに立ち止まり自分の課題が客観的に見えてくる。自分自身を見直す大切なことであると痛感する。

満身に目標を達せられた事 又、十分に良かった事なども把握できるが、まだまだ、不十分で心残りの面も見えてくる。日々の保育・季節ごとの行事・学期末・学年末をその都度振り返っているが、園としての、個人としての課題が明確に分かる。

保育のあり方や幼児への対応、保護者への支援等、方向性が一致出来るよう日々話し合い進めていくことが大切である。

下記のことは、毎年と同様であるが大切なことであるので、今後も記しておきたい。

- \* 保護者や地域との関わりを深める。
- \* 支援が必要な園児には関わり方を、保護者と共に専門知識のある関係機関と連携をとる。
- \* 子どもの育ちを十分に意識し、その育ちの手助けとなるべく配慮する。
- \* 子どもの思いを受け止めると共に、その思いに答えられるようにする。
- \* 自然に触れる機会を多く持ち、四季や自然現象を体感出来る機会を持つ。
- \* 子どもにとっての、安全かつ安心できる最良の環境を整える。
- \* 個々の保育者が研修・専門書などの勉強を怠らず、自己の成長を図る。
- \* 職員間同士で、報告・連絡・相談しあい、足並みを揃えた保育を行っていく。
- \* 危機管理について職員間で確認しあい、どの様な場においても対処・対応できるようにしておく。
- \* 全てにおいて、丁寧な保育・仕事をする。
- \* 改定された教育指導要領に基づいた、指導教育を行う。



等を常に意識しながら、保護者対応・学級運営、そして子ども達と実りある充実した園生活を送れるように、又、幼児期の教育を行えるようにする。

#### 5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
環境作り	園生活が楽しくなるように、怪我などしないよう、園内外の安全、点検・整備を日常的に怠らない。備品など老朽化しているものは放置せずに、新しいものに交換するカリサイクルする。園庭の草花などの環境を整え、いつでもきれいな状態であることを維持する。火事・地震・不審者侵入などの非常時訓練を教職員だけでなく、バス添乗員や延長保育担当職員など、新しい職員が入る毎に確認し、園に関わる者は全員把握できるようにする。
保育技術の向上	教職員での意見交換・情報共有を大切にし、改善案を常に見直すことを日常化しながら、子ども達が今、何に一番興味を持っているのかを考慮し、個々の個性を伸ばせるようなカリキュラムを作成する。現在、クラス毎に行っている事務作業をまとめて行うことで、作業効率をあげ、残業時間を減少させることで、保育者自身が様々な研修会に参加することができ、スキルアップを目指す。
小学校との連携	就学前の園児一人ひとりを十分に把握すると共に、課題のある子どもには、的確な引継ぎを小学校に行い、保護者の思いも受けとめつつ、就学後も安定した生活が送れるように援助する。また幼保小接続の研修会を通して、互いに現状報告をする。
地域との連携	地域の方々との関わりをもち、日々の保育に繋がるようにしていくことが、園児の安全・安心である園生活を送れ、安定し充実した教育に繋がる事を理解し進めていく。また、地域での交流会に積極的に参加し、未就園児の活動に力をいれたい。

# 令和 5年度 学校関係者評価 結果公表

## 幼稚園の教育目標

- \*心身共にバランスのとれた子。
- \*健康で明るい子、元気な子、思いやりのある子、強い心を持った子。
- \*自分でよく考え、自分で行動出来る子。

## 幼稚園の教育方針

- \*健康な体力を養う保育（専任コーチによるスイミング指導と体育指導）
- \*子どもの発達段階を考え、頭に詰め込むのではなく豊富な経験を身体全体で受容する保育
- \*ひとりひとりを大切に、楽しみ喜び明るさいっぱいの愛情ある保育

	評価項目	評価	理由
1	保育の姿勢・進め方について	A	概ね満足できる内容である。
2	園児への対応	A	個々の園児を見守り、寄り添う姿勢、年間、月間、年間通しての保育や行事共に、達成されている。
3	幼稚園教諭としての能力・良識・資質	B	一人ひとりに向き合っている。又、全職員が全園児を把握していることが分かる。 今後も各園児、幼児に対する言葉かけ、言葉使いなど、丁寧に理解しやすく伝えていってほしい。
4	保護者の方への対応	B	園児、保護者に対しての対応等の配慮など、大体は満足できるように思う。今後も配慮や注意を怠らず、園児の対応、保護者の対応、園内外の対応に心配りをしてほしい、顔の見えない電話の対応にも、より一層の配慮をしてほしい。
5	行事のバランスや設定	B	コロナ禍で縮小や無くなった行事も、コロナ禍前に戻りつつあるが、現状に甘んじず、コロナ禍前の行事を再考し、より良い行事を子ども達に体験、参加させてほしい。
6	安全管理の取り組み	B	遊具の安全点検など、何時どのようにしたかを知らせてほしい。 園門の施錠、又、施錠時のインターホンのやり取りを、より安心できるよう配慮、心配りを忘れず行ってほしい。
7	園に対する保護者の満足度の把握	B	意見箱を設置しているが、保護者が投函しにくい場所であるので、気兼ねなく投函できる場所にしてほしい。 Google Form の設置を検討してほしい。

- 結果の表示方法・・・・・・・・
- A 十分達成されている
  - B 達成されている
  - C 取り組まれているが、成果が十分でない
  - D 取り組みが不十分である

今後の園のあり方、問題点、又、その他諸々に関しては特にないが、現状に満足せず、園児の対応、そして、日々の保育、対応、行事に対し、より良い方法を常に模索し考え進めてほしい。